

## 米寿を迎えるにあたり

後期高齢者になってからは、年齢はあまり気にすることなく過ごしてきましたが、この度は年齢だけでなく心身共に健康状態で米寿を迎えられた事は、喜びと共に社会に、家族に、自分自身に感謝しなければと思っています。

私達の年代は戦時下における物不足、戦後の食糧難と厳しい時代を経験しましたが、終戦記念日に思い出すのは戦時中父親が大阪市役所に勤務していた関係で都島に住居がありました。大阪も米軍の攻撃的に成り急遽父親を残し、郷里愛媛に疎開と転校（旧制中学3年）をしました。学校には陸軍将校の配属教官が学校教練の指導に、勉強するまもなく、今度は学徒勤労動員令で労働力不足を補うために軍需工場へ動員されることとなり、同学年 120 名全員が新居浜市の住友アルミ工場に配属、学生専用の寮生活、上級生寮長のもと起床後、朝の銃剣道教練、朝食後は隊列を組み工場出勤、退社後は寮にて学習、工場ではグループに分かれ職種別に配属工員さんの傘下に入り指示に従い作業開始。私は電気グループで内線外線の作業の補助。電気知識も自然と身に付ける機会となり後日の仕事に少しは生かされたと思います。



戦争も終盤に入り当工場にも米軍機の爆弾が落下、同級生が防空壕に入るのが遅れ爆風による破片が眼に当たり片目を失明する大惨事となる国内で身近に戦争を体験した一瞬だった。間もなく終戦、現地解散となり新居浜駅に行くも人で混乱、列車は満員続き、やむなく同村の学友 3 名と 8 月の炎天下を歩いて帰る事に決め、銃剣道具を鞆にくくりつけ肩に背負い途中で小川を見つけては足を冷やし冷やし 20 キロの道を自宅に帰ったことを思い出しました。

「人生いろいろ」と言いながら永い人生生活で平和が続いた事に幸せを感じると共に、国の平和が家庭の平和になり、これが長寿社会の原点であり、これからも永く平和な生活が続く長寿社会を願っています。戦争は絶対に反対です。

